

永遠の子供（新しき世界へ 1968年10月号）

桜沢如一

今思つて見るとアナトール・フランスはほんとうに永遠の子供だ。彼は真剣に玩具を求め、一生、命をかけて思ふさま遊びくらしした。ロマン・ローランも永遠の子供だ。ガンヂイだってタゴールだってレーニンだって、マルクスだって.... 高位大官、事業家、政治家(文学音楽美術は云ふもさらなり)あらゆる新聞記事のタネになる人々は、みな大きな悲しい『子供』だ。名誉や金や、勲章や、異性やを真剣に一生の間探求する人々だ。みんな幸福の山を目指して必死に登ってゆく人々だ。しかし、この有限、現実界に沈没している人々は、大部分は道に迷つて、小さな連山の一つや、小さい丘に登っている。磁石がないからだ。三千年来、この幸福の絶頂に達した人は、有名な人の中には五指を屈するにも足るまい。有名と云ふことは、すでに現実界、見える世界、感覚の世界、つまり人里近い低い山を意味する。無限の幸福の絶頂は雲にかくれて、人里から見えない。だからそこに達したらほんとうは有名になるワケがない。幸福の絶頂は無名であり、未だ人間の足に汚されてはいない。そこに辿りついた人々は殆ど大部分決して帰つて来ない。そこで人里を、人の世の煩しさを思い出すと帰る気がしないからである。キリストや老子やシャカの様なきわめて少数の人々がワザワザその幸福の絶頂から下りて来た。けれども、その人たちは生きている間、人里にいる間中、けつして信じられなかった。よし信ずる人があつても盲信する人であつた。ヘーゲルやカント、レーニン、マルクス、王陽明、尊徳、信淵、昌益等々はみな五合目位まで登つて来た人々である。そんな「永遠の子供」が大人ぶつたら滑稽になる。賢者ぶれば最も愚かな者になる。「永遠の子供」はあくまで『永遠の子供』でなくてはならぬ。『永遠の子供』が自らを大人だとか賢いとかエライとか思つていたら悲劇だ。全ての悲劇の原因はこゝにある。

『永遠の子供!』

何と云ふ幸福なことだ!

「永遠の子供!』

何と云ふ楽しい人生だ。

剛勇でも、知識でも、富でも、名誉でもそんなものを頼みとする人はみな悲劇の主人公

となる。ナゼナラそんなものはみな『現実』と云ふ大ウソつきの感覚の色メガネがさもマコトらしく見せてくれる『真実』の世界の幻影又は想像もしくは遠望なのだから....現代人はみな「現実』を根掘りハ掘りする『科学』を信憑している。つまり『科学』と云う『狐』が憑いているのだ。みんな『狐つき』だ!みんな底なしの不幸の泥沼におちこむのがケリだ。いやそんな苦悩の故里を去ろうとしないのだ。幸福の高嶺への道を示されても、浅墓にも、いや義理だとか人情だとか、黄金だとか、名誉だとか、愛欲だとか云う見えない鎖で目分を、このみじめなはかない現実界にしばりつけて、この人里を捨てることを拒絶するモノさへある。まことに「苦悩の旧里は捨てがたく』である。みな一合目へさへ来ていないのである。いや登山口へさへ来ない人々である。苦しみの谷に幸せの絶頂を求めつゝ迷ふことを現実探求と云う。男々しく勇ましく幸せの絶頂目ざして出発する人はまことに稀である。

吾らは絶頂へ登ろう。

幸福の絶頂へ正しい道を、正確な P.U の磁石でグングン進んでゆくと云ふことほど、幸せなことはあるまい。その途中までしか役にたゝない様な磁石をもっていたアナトル少年や、ロマン・ローラン少年でさへ、あんなに幸せな一生を送ったのだもの.....

この幸福の絶頂への道を、人に説くことはムダだ。大きなムダだ。私は三十年やってみた。ムダだ。それより、縁のある人々、求める人々(だれでも皆求めているのだが)に、この P.U の磁石を上げるのが一番効果的だし、一方自分のためにもなる。この磁石の使用法を人に教へると云うことは、やがてこの磁石の魔法の正体を体得することを早める最もいゝ方法なのだ。P.U と云う磁石は実にタンカンな構造だし、そのダイヤルにはたゞ▽△と二つのシンボルしかついていない。けれどもその効用たるや使ひ方如何によって実に驚くべき、無限の自由自在性あらゆる可能性を示してくれる。がその P.U 磁石の効用を十分に体得するためには、その使用法を人に出来るだけ多く説いて見ることより外にない、と云ふ大きな矛盾がある。しかし「体得するために人に説く」「自分のモノにするために、人に与へる」と云ふことが大きな矛盾に見えるのは、まだ自ら現実、物質、幻影、仮像の世界に囚はれてあるからなのである。一度び真実、無限、自由の世界に入れば、すべては解決されるのだ。

永遠の子供たれ!

六ヶしい顔をするな!

P.U をしっかりと身につけて

幸福の絶頂へゲンゲン肉迫するんだ!

P.U をしっかりと身につけて!

(昭 19 年 9 月 発行, 永遠の子供より)

本文の複写、複製、転載、その他いかなる方法による使用の際には日本 CI 協会にご相談ください